

第三十日目

師 範：バスコ＝ダ＝ガマはポルトガルから東回りでインドをめざしました。
アフリカの果てが知られていなかったときですから、アフリカ大陸を南下して
ど



こまでいくか不安な航海でした。

ついに海流の変わる気配とともにある岬を越えました。

そしてアフリカ大陸の沿岸を北上して、今の赤道あたりから東北に進路を変え、
インド西岸のカリカットに到達しました。ついにインド航路を発見したのです。
あの記念すべきアフリカ南端の岬を、喜望峰と名付けました。

1498年、ガマがインド航路を発見する。

この年を覚えましょう。

コン太：これです。



「ガマはポルトガルの人四苦八苦の船旅」

「ひと」は1、「しくはっ(く)」は498です。

師 範：なかなかのできですよ。

ペン太：ぼくのはこうです。



「インド行き人よくやったとガマたたえ」

「ひと」は1、「よ」は4、「く」は9、「や」は8、これで1498年。

師 範：これもなかなかよくできています。

1490年代に、二人の冒険家とも探検家ともいえる人物が、東西の航路を開拓したということに驚きますね。

世界一周をめざしたマゼランは、これから二十数年後に出発します。

まさに大航海時代ですね。